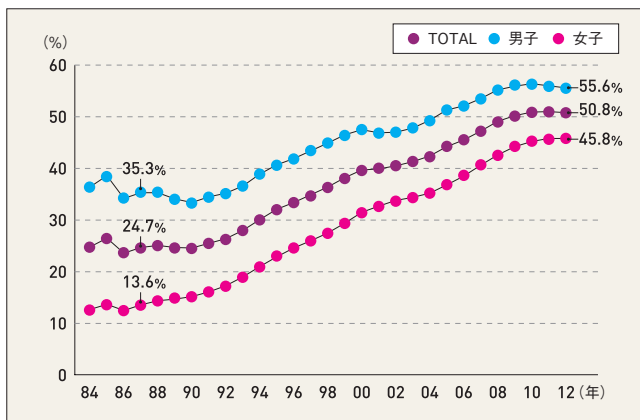
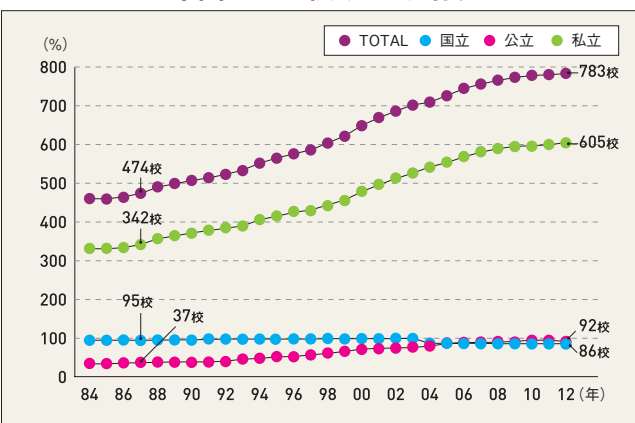


[図1 大学進学率] 25年間でほぼ倍増



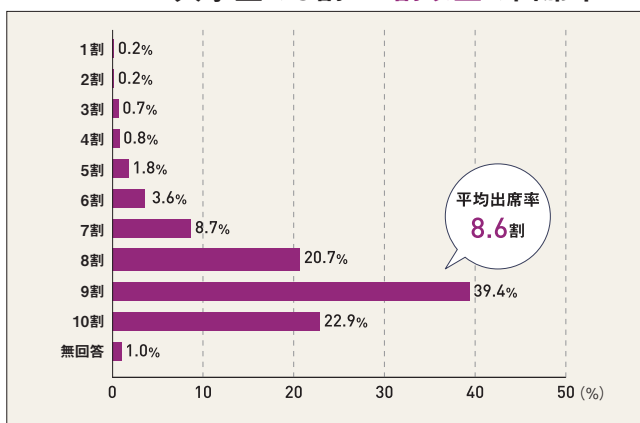
出典:「学校基本調査」文部科学省(平成24年度)

[図2 大学数] 25年間で300校以上も増加



出典:「学校基本調査」文部科学省(平成24年度)

[図3 授業出席率] 大学生の9割が7割以上の出席率



出典:「大学教育の現状と将来～全国大学教員調査」東京大学(2010)

保護者が知っている「昔の大学生」と「今どきの大学生」とはどこが違うのか、さまざまなデータで明らかにしていきます。

まずは大学進学率(図1)。87年は25%、25年後の2012年は51%。「4人に1人」だった大学生が、「2人に1人」の時代になったのです。

大学進学率が増えた要因のひとつは、大学数が急増したこと。87年の474大学が12年には783大学へと、25年間で300校以上増加しました

大学も、大学生も、昔とは大きく違う！

# 最新データと 大学事例から見る 大学教育の今

# 大学 レポート 2013

現代の大学生像を示すさまざまなデータをご覧ください。そのうえで「教育改革」「キャリア教育」「グローバル教育」という現代的なテーマに取り組んでいる、注目の大学のレポートをお読みください。

まとめ(32-33p) / 荒尾貴正



## 教育改革 Educational Reform

大阪経済法科大学	p.34
淑徳大学	p.36
帝京大学	p.38

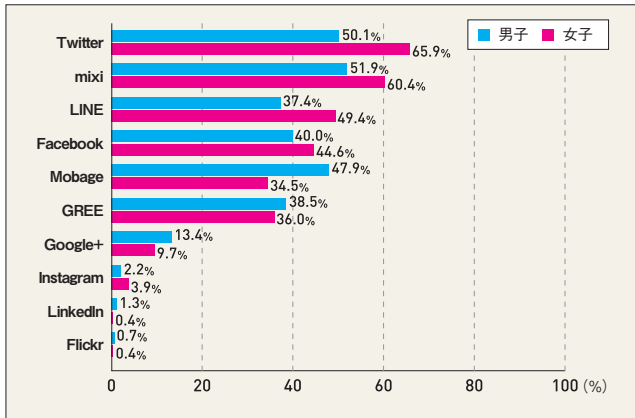
## キャリア教育 Career Education

千葉商科大学	p.40
東京家政大学	p.42
東京農業大学	p.44

## グローバル教育 Global Education

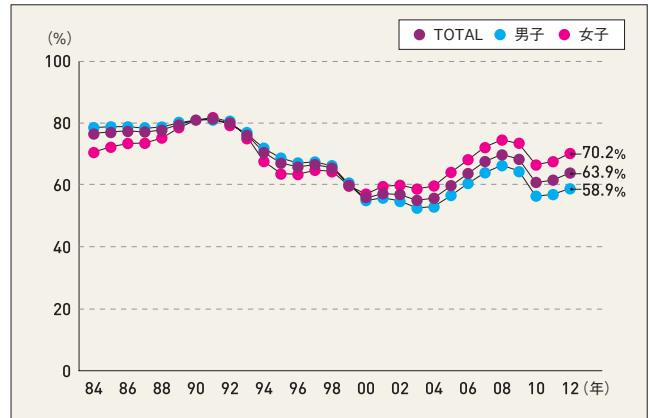
神田外語大学	p.46
武蔵野美術大学	p.48

【図7大学生が利用するSNS】多様なSNSを使いこなす



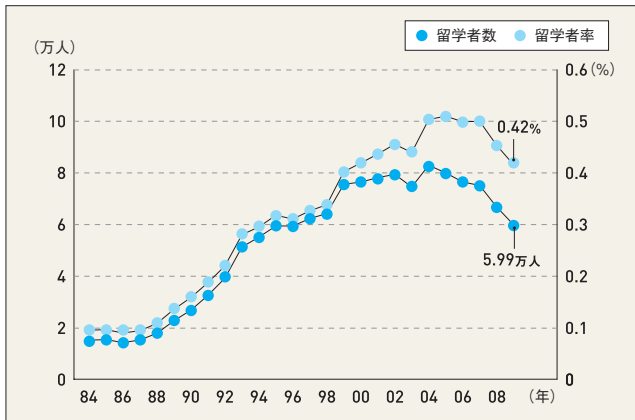
出典：「大学生・大学院生のSNS利用とノー活に関する調査」株式会社GABA調べ(2012)

【図4大卒就職率】依然厳しいが前年より2%上昇



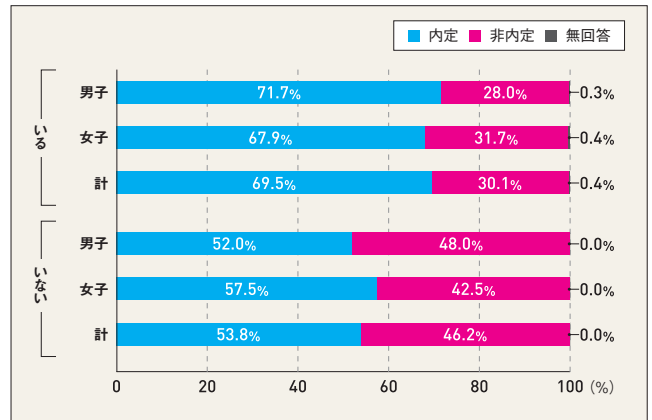
出典：「学校基本調査」文部科学省(平成24年度)

【図8海外への留学生数と留学生率】25年前よりは増加



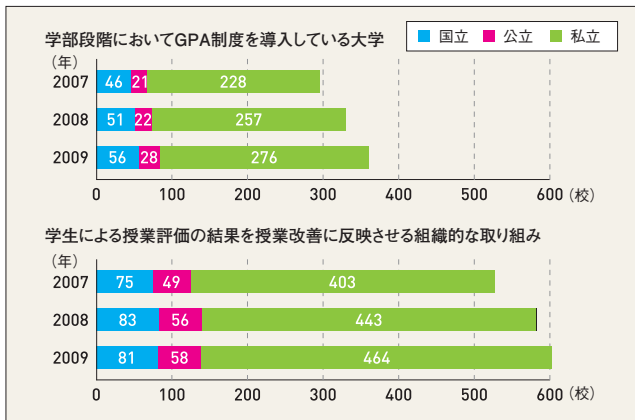
※留学生率=留学生数/20代人口 出典：文部科学省集計、国勢調査

【図5相談相手有無別内定状況】「いる」人が内定率高い



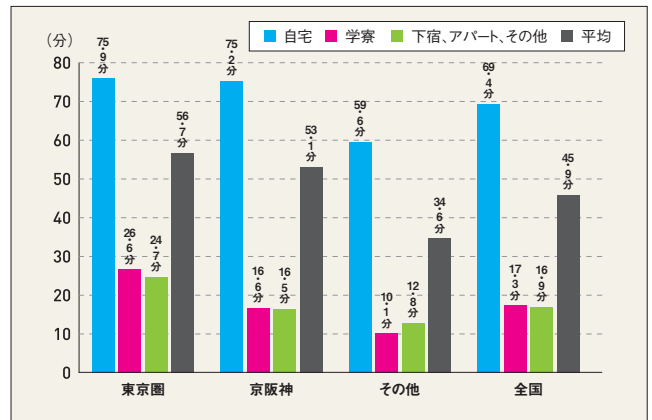
出典：「47回学生生活実態調査」全国大学生生活協同組合連合会(2012)

【図9大学教育改革】成績評価、授業評価が進化



出典：「大学における教育内容等の改革状況について」文部科学省(平成21年度)

【図6通学時間】自宅から通う大学生は通学に69分



出典：「学生生活調査結果」独立行政法人日本学生支援機構(平成22年度)

（図2）。今どきの大学生は、昔より「まじめ」だといわれます。それを示しているのが図3。「平均出席率8.6割」という数字は、保護者の大学時代には考えられなかったでしょう。

大卒就職率は、87年の77%から12年は64%へと減少（図4）。厳しい状況がうかがえます。就職内定者の状況を見ると、「相談相手がいる」ほうが「いない」よりも内定率が高いというデータもあります（図5）。

通学時間は、自宅から通う大学生は69分、下宿・アパートから通うと17分というデータがあり、地域差も見られます（図6）。

80年代のコミュニケーション手段は対面か固定電話がほぼすべてでしたが、今はSNSがあります。その利用状況は図7。

日本の若者は内向きで海外留学生者が減っているといわれます。ここ5年ほどはそうですが、20年以上のスパンで見ればそうはいえないことが特に留学生率からわかります（図8）。

現代の大学は、欧米で一般的なGPA Aという成績評価方法を取り入れたり、学生による授業評価を授業に反映させるなど、さまざまな「改革」に取り組んでいます（図9）。次ページからのレポートで各大学の具体的な取り組みを、ご覧いただき、お子様の進路選択にお役立てください。